令和４年度一般質問

神石高原町議会議員　木野山孝志

【百彩館について】

木野山

百彩館については昨日、本日と同僚議員からの質問で大体流れは分かったのではないかと思います。

まず、私の思いから述べさせていただきます。

思えば、平成30年度は町第3セクターの運営管理に於いては、大変忙しい年でした。

平成30年の9月に、丸ごと市場設置管理条例の廃止。10月１日には、(有)油木特産販売が清算され、(有)さんわ182ステーションが経営・管理を引き継ぐことになりました。

「百彩館」いわゆる、百(ひゃく)の彩(いろどり)の館(やかた)として地域農産物の販売拠点の役割を担い長い間油木地区の皆さんに親しまれてきた「油木百彩館」は、平成30年10月より、さんわ182ステーションの油木支店として運営されております。

以来、3年が経過しましたが、原因となった単体での赤字傾向は種々の経営改善対策にも拘らず解消されず、令和3年度の収支決算は600万円弱のマイナスとなったと聞き及んでいます。

このままでは182ステーションの経営を圧迫し、盤石な本体財務体質に大なる影響を与えかねません。

(有)さんわ182ステーションは第3セクターであり、過半数を超える株式を所有する本町は実質オーナーという立場にあり経営の最終的責任者である。

今後、油木百彩館の経営をどのように改善するのか。

油木百彩館の立ち位置を含め、最善なる方策についてお考えを伺う。

町長

〇先般の定時株主総会において油木百彩館のあり方につきましては，9月末を目途に産直市場から新しい活性化施設として検討していく方針が示され承認されました。
町といたしましても，株主において承認された方針については尊重したいと考えております。
地域の若い方々で議論されている店舗の有効活用について，その動向を見守りながら，町も一緒になって，しっかりと関わりながら地域の有効的な施設となるよう検討してまいりたいと考えております。

木野山

地域の有効的な施設となるよう模索していきたいとの事で、具体にかなり議論が深まったようです。最後の質問者なので経緯について少し振り返ってみたい。

経営が厳しくなったことが要因です。平成27年から29年までは赤字となった。平成30年は黒字の174万円、平成30年の10月から182ステーションと統合した。

これは町長も、182STとの競合を避けるため会社は解散し一つの会社として盛り上げる、と当時言われました。

1）百彩館を存続するために（店舗・食堂を残す）

2）統合後も油木活性化の拠点として位置付ける

3）道の駅さんわ182ステーションの店舗として営業を継続する

4）支配人を取締役として配置し各部門、市場・ローソン・百彩館・売店、の売り上げ増を目指す。

・町内産直市場の流通拠点とする

・統合後も 18％の手数料は変更しない

・多様な出荷主や集荷方法を駆使し黒字化を目指す

＊町の指定管理条例は残し、契約者名の変更を行う、ということでした。間違いないか。

町長

急には覚えていないが、そういう事だったと思います。

木野山

その時、私も、町の産直市場の拠点としても、これは集荷の部分であり、販売戦略がない。販売をどうするかという思想がない。と言った覚えがございます。

縷々経過し、令和1年6月の、百彩館関連質問にて、182の経営となって

赤字の解消のために、パート部門の人件費削減や地元産品への特化など行った。

地元サポートクラブとの意見交換の中で、地元産の農産物・加工品を販売の核とした。

結果として、売り上げ減に繋がった。いま対策を検討中である。

というご答弁だったと思います。

何故難しいかといえば、民業圧迫を避けるという事もあり、地区の業者の方々（中平・夢やさんなど）と協議して対応したが、結論的には限界がある、という事だとのご答弁だった。

結果として、赤字でこの度の182ステーションの会社の方針が出た。

この3年間で、どのようなことを対応されたかといえば、大まかには先程言いましたように、

・職員を3人から二人に削減した。人件費の削減ですね。

・取扱商品を拡充する事で、仕入れ商品を増やした。日常の商品、缶詰め・ラーメン・油・醤油などを仕入れた。マルエフ、満点市場などと取引を始めた。商品の幅を広げた。

・わくわく農業チャレンジャー部会、油木支援センターの百彩館支援部隊とお聞きしていますが、そこと連携して「軽トラ市」を開催された。なかなか良かったとお聞きしました。

・油木高校の「ナマズレストラン」の開催も行った。

ですけども、なかなか結果が上がらない。

令和元年は、売上が6，070万円、赤字が193万円、令和2年5，900万円の売上で赤字が216万円、令和3年は先程から言われているように売上が4，900万円で赤字518万円でした。

なかなか結果が伴はない。これでいいですね。確認します。

副町長

言われた通り会社では様々な取り組みを頂いている。統合してからの3年間だけではなく、百彩館が出来てから順調に行っていた時期から毎年1000万円ずつ売上が下がってきていた。

そういった中での3年間の状況だと思う。いま、言われた通りです。

木野山

そこで出た結論は、昨日、本日の同僚議員の質問の中で明らかになりましたが、産直市場としての経営はどうも難しい、困難なのだというのが182ステーション、会社の結論だったのかなと思います。今年の9月末を目途に、それまでに良い改善案が無ければ指定管理を外してください、と令和4年度株主総会に提出された今年の経営方針という大きな枠の中でそのように説明された。それを出席株主の方がご承認をされた。と聞いております。

そこで言われた理由が、

・百彩館は高齢化などで出荷者が減ってきた。多種類の野菜が出されなくなってきた。

そういったことで産直市場としての百彩館の魅力が少なくなってきた。

・産直品は道の駅182STのリニューアルで人がストップしてきた。都市部から外からお客が来なくなった。これが、百菜館の産直方式での運営の限界があると判断された大きな理由かと思います。

・油木地域の人も高齢化しており、コロナの影響などで市場商店も閉店多く活力がなくなり、油木自体の地元のお客も来ない。これも原因の一つです。

・日常商品拡大にも手掛けるが、スペースの問題や人的対応の問題、民業圧迫などの制約もあり、なかなか元に戻るというか利益体質にならない。

というのが原因と思います。

そこで、対応策をこれから縷々検討することとなりますが、道の駅も油木の地元の方にこの3年間のうちに説明しながら、先程言いました、わくわくチャレンジャー部隊会合へ出席しながら、良い方策はないかご検討されたと聞きました。

今後の百彩館の在り方を考えてみました。

話を戻しますが、道の駅の方針は、総会の資料に乗っていますので、読んでみますが、

・努力をしてきたが産直市場としての営業は困難と判断し、道の駅としての機能は182ステーションが担当し百彩館は独自の運営で新しい店として展開してほしい。

・今後は油木地域の活性化の拠点として、若者中心に検討してほしい。

・そこで新しい店としての協議が整えば9月を目途に百彩館の運営から手を引き指定管理も受けない。総会資料は要約するとこの通りです。

若者、高校生あるいは協働支援センターを中心に新しいまちづくりを考える。

この店舗をどうすれば残せるか、考えてみました。
〇一つは店舗として活用する。もう一つは店舗でない施設として活用する。
①油木地域の活性化拠点として特色ある店舗として活用する。
・「本物の店」、こだわり職人の作るもの、そこでしか買えないもの・加工品を販売する。
・油木高校生、若者として位置づけると、一緒に運営する。ビジネスモデルを探求する。
普通科の生徒は、経営学の勉強やキャリア教育。産業ビジネス科の生徒は、今行っているような地域の特産品づくり、名物づくりを手掛ける。など教育の場として活用する。
・有名になった、神石牛・ジビエ料理の食べられる特徴あるレストラン、
・粉工場は機械の存続する期間は継続して営業する。
②それ以外の店舗でない施設としての活用としては
・都市部からの転入者対策　・若者の起業を促す施設とする。ネット環境の整備、貸事務所、モノづくりできる場所など。
・若者を呼び込む場としてワーキングスペースをつくる。
・事務所としての活用を考える。自治会センター、商工会、協働支援センターなど。
先走りましたが町長どう思われるか。

町長
色々提案を頂いたので今議論している中で生かしたい。

木野山
若者を中心に、という事ですが、整理が必要です。
百彩館を活性化の拠点として位置付ける訳ですから、指定管理を受ける団体が確定しないなら、「町の建物」をどうするかという問題なので、指定管理とするか町の直営とするか、検討する。戻って考えると、どこかの団体の指定管理にするならばその団体が運営すればよい。公のお金をそこにつぎ込んで管理するわけで、金額・管理料をどのように考えるか。議論してみたいのですが。

町長
まだ議論の途中なので、9月末を目途に話をされているので、それまでにどういう形で繋いで行けるのか、時間が掛かるならその場合はどうするのか検討してみたい。指定管理になるのか直営になるのか、これもそれまでに考えたい。

木野山
分かりますが、指定管理ならばどうなのかという議論を先にしておかないと話し合いのなかでの結論が出にくいと思う。
第3セクターの指定管理料で、182ステーションが百彩館の指定管理を受けるときに指定管理

料はいくらだったのか。
他の第3セクター、スコラや農業公社の指定管理料は幾らだったのか。
指定管理料として公のお金を注ぎ込め得るのだったらどうしようかという話も出てくると思う。
因みにティアガルデンは IPF 方式で1，000万円だったと思うが経営難の場合どうするか押さえておけば選択肢が広がると思う。教えていただきたい。

産業課長

油木百彩館の指定管理料はゼロ円です。運営補助金として別枠で100万円支払っている。182ステーションは全体として、農産物加工施設に156万1千円、ふるさと活性化センター245万2800円、キノコの森わんぱくトマトガーデン91万7千円、以上です。
帝釈峡スコラの指定管理料は多目的広場568万7千円、神石スパイス館110万5千円、森林総合利用施設143万4千円、資料展示室5万1千円、ハーブ館45万円、農村公園5万3千円。ティアガルデンは100万円減の900万円です。

副町長

指定管理料の基本的な考え方として、管理をして頂く上での公共的部分の積み重ねで金額が確定されている。道の駅で言えば広島県が管理するトイレの委託を受け200万円を出している。このように施設によって違っている。指定管理については地方自治法で言われているように民間の活力を利用するという事なので、必要経費は町が負担しそれ以上の部分は民間が運営して戴き利益を上げて頂くことになる。

今回の百彩館については今後どういった形になるか、管理をして頂けるかそういったところも道の駅の社長を中心に地元の方と協議されているので、こういった経費が必要といった事が出ればそういったものを指定管理料として入れていくことは可能です。百彩館には公衆トイレも在りますし駐車場の管理なども在りますのでそういった部分を含め施設の管理について必要な部分があれば考えていく必要がある。

新たに指定管理者を募集する段階で管理料額の話は今ここでは出来ない。協議内容を聞きながら慎重に判断したい。

木野山

指定管理については双方がウインウイン、民も公も利益になるように金額は決められるものと思っている。あくまでも必要な管理費は指定管理料に含める。182のトイレは県から管理料として200万あまり出ている。百彩館も補助金は100万円と言われたが百彩館用ではなく182の500万何某の中に含まれている。単体では赤字を予想されていたのだと思う。
赤字部分を全部182の市場部分でカバーするのは182本体の経営を圧迫しますが、これだけでは無くフードコートも赤字、またローソンも赤字が解消されていない部分も含めると市場部分の利益で黒字となっている、ある意味では市場へ集荷されている産直の皆さんの肩に掛か

っている。
こう考えると百彩館の赤字部分は町民全体でいくらか負担するとすれば、182ステーションが指定管理を辞退した段階で、補助金とするか指定管理料として出すのがいいのか、赤字部分を幾らか少なくするという工夫をすれば油木の皆さんが望まれる産直市場の機能を持った施設とするという考えもないことはない。
何故これだけかかるのか分かりませんがスコラには、1億円をかけた温泉施設改修も含めて、多額の指定管理料や補助金が入っている。182ステーションにはそういったものは全然入っていない。民間で利益が出ているからといっても、先程話したようなものをたくさん抱えながら営業し僅か150万円の利益です。時には赤字になることもある。
そういった事を総合的に考えるべきではないか。どう思われるか。

町長
　スコラとティアガルデンについては、ティアガルデンは PFI で事業を行っていますが、基本的に管理料が出ていますのでそれを継続しながら如何にそれを少なくしていくかという事と、それぞれ町の観光資源としての大きな施設であり利用者も増えているので継続していきたい。
もちろん道の駅も平成6年にオープンした当時は500万円の運営補助金が出ていた。それから5年間で100万円ずつ減額してゼロにする計画だった。2年目に400万円出して次の年からは黒字となったので2年目からはゼロとした。現在もゼロとなっている。加工施設の指定管理料も実際に運営で儲かっているわけではない。新しいキノコの施設も管理料が必要なので収益に繋がっていない。お客さんが来る相乗効果にはなっている。
百彩館もその時はプラスマイナスゼロで指定管理料はなく運営補助で100万円出ていた。基本的にそれがベースとなって現在も基本的に指定管理料はゼロです。当時考えましたが、毎年1，000万円ずつ売上が落ちてきている、それを指定管理料でどんどんどんどん今年は500万円出す、今年マイナス500万円、100万円の補助金は別なので、エブリイ出荷手数料の300万円は返ってくるので、実際は700万円の赤字、それを指定管理料で賄っていく、それは赤字部分ですから、それからプラスになっていくかどうか考えると、今の段階で指定管理料としてお金を入れていくのは考えられない。
　これからの指定管理については経費の部分を、スタートの時点で必要であればどのようなことを行うのかどういう経費が必要なのか考えながら、指定管理であれば指定管理料も検討していきたい。

木野山
　そういった事である程度の指定管理料でよいので財源を確保し誰かが指定管理を受ける。道に駅の継続でもよいし、油木の地区民の方で、良い例が豊松の協働支援センターでNPO法人を作られている。モノを売っているわけでなく、補助金の受け皿としてNPO法人を作られ豊松の活動拠点として皆さんで管理をされている、こういったものを油木の皆さんで、若者中

心でもよいので、作られ出来た時には指定管理を含めて財源を保証すれば地域の拠点として動くし、また産直とするならば、三和で言えばポケット市場とかありますが生産者がそれぞれ産品を持ち寄りその中で管理運営をされている、誰も経理をしていない、百彩館の半分くらいをそういった産品市場とすれば良いのでは。
町は関係なしにそこだけで管理運営されるとよい。そうすると経費を考えなくてもよい。
残りの部分はNPO法人が指定管理を受けてコーヒーショップなど共に運営をする形態はどうか。一つの提案として受け止めていただき、なんとか油木の拠点として位置付けて戴きたい。
売上額や赤字を考えなくても良い施設とすれば、あるべき拠点となるのではないか。
寄付を募るなり色々な財源確保の受け皿となるような施設になるのではないか。
ご検討いただきたい。

町長
　具体的な提案を頂きました。こういった事も含め誰がどのような形で運営して行くのか。
収益事業を行う収益センターがやっていくのか。考えていきたい。

木野山
　よろしくお願いします。
誰がリーダーでこの話をまとめるのか。
現在は、182ステーションが担っておられるが、これから何処がするのか。町がするのか。

町長
　9月末までのリーダーというかまとめ役は、道の駅でやっていただく。これからの事なので町も関ります。一緒に考えていきたい。

木野山
　9月末までに182ステーションの社長がされているのでは9月の末には移れない。そこまでの間に検討しまとまれば182ステーションは手が引けるのではないか。今からやらないとダメだ。
制度の事や条例も変更しなければならない。

町長
　今からです。今から検討し9月末までには結論へ持って行く。